



広めよう、かけがえのない土壌の大切さ

見て、測って、土を考える in かわはく

国際土壤年を記念して行われている巡回展「土ってなんだろう？」に合わせ、6月14日、私たちは“土の呼吸(CO₂)を測る装置”を車に積み込み、この巡回展を主催し最初の開催地である、埼玉県立川の博物館(かわはく)に行ってきました。

館内には、土のでき方や土の中の生きものなどについて工夫を凝らした説明展示があり、私たちは、その生きものの活動の結果、「土からCO₂が出ている」ということを持ち込んだ装置で実演しました。説明後に質問に来て、土の炭素貯留による温暖化緩和の話



畑の土にチャンバー(箱)をかぶせて、チャンバー内のCO₂がだんだん増えていくことを実測

じっくり聞いていかれる方もいて環境への関心の高さがうかがえました。

(物質循環研究領域 大浦 典子、岸本 文紅)

子ども霞が関見学デーに協力

7月29日・30日に、霞が関の中央省庁で「子ども霞が関見学デー」が開催されました。農環研は、農林水産省の農林水産技術会議事務局と生産局が、国際土壤年にちなんで出展する「土の不思議」に協力し、光る泥だんご作りや土壌モノリスの展示、土壌生物の観察、土による水の浄化実験を行いました。泥だんご作りは事前申し込みが定員をはるかに超える人気となり、水の浄化実験にはたくさんの子もたちが参加しました。

農林水産省には、この2日間で全府省庁トップとなる4787人の来場者があり、アンケートでは「土の不思議」が農林水産省の企画の中でもっとも満足度の高い企画となりました。



水の浄化実験を体験する子どもたち

議」が農林水産省の企画の中でもっとも満足度の高い企画となりました。

(広報情報室)

荃崎中学校で出前授業

国際土壤年に関連して、つくば市教育指導課から土壌に関する科学出前レクチャーの要請があり、土壌環境研究領域の赤羽幾子主任研究員が、荃崎中学校科学部の生徒を数回にわたって指導しました。レクチャーで生徒たちは、土壌についての基礎知識を学び、「光る泥だんご」を題材として、土壌の物理性を調べる実験をしました。その後、生徒たちはレクチャーから学んだことをもとに、校区周辺で採集した土壌を使って「光る泥だんごに適した土を探る」というテーマで研究を続け、つくば市主催の科学研究作品展で、みごと銀賞を獲得しました。



土壌の色を調べる

なお、この取り組みの一環として、10月31日・11月1日に開催される「つくば科学フェスティバル2015」では、農環研と荃崎学園の連携企画「光る泥だんごをつくらう!」を出展します。

(広報情報室)